



■28年度はこんなことします! ■

4月	・春の茶会「維新ふるさとCafé」(3月19日~5月8日) ・転入者講座「鹿児島どんなんとこ?こんなとこ!」(24日) ・維新ふるさと館古書店(4月23日~5月8日)
5月	・PTA講座「子どもに語る鹿児島の歴史」(22日)
6月	・第1回歴史講座「薩摩と琉球」(26・27日)
7月	・第2回歴史講座 ・夏休み親子歴史講座「銅像にみる鹿児島の歴史」(30日)
8月	・教職員講座(9・10日) ・自由研究 歴史の質問引き受けます(8月毎週水曜日)
9月	・第9回西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展
10月	・第3回歴史講座
11月	・維新ふるさと博「維新ふるさとCafé」 ・維新ふるさと館古書店 ・第5回維新ふるさと館歴史シンポジウム(27日)
12月	・第4回歴史講座
1月	・第5回維新ふるさと館新春寄席 ・第5回歴史講座
2月	・第6回歴史講座
3月	・第6回西南戦争戦跡めぐり

※イベントは開催時期・内容等が変更になる場合もございます

温故地新

ふる故きを温ね、地元を新たに。

■桜灯りフェスタ、賑う

鹿児島市内の桜の名所のひとつ、甲突川河畔で4月1・2・3日に食と灯りを楽しむ「第3回桜灯りフェスタ」が開催されました。

今回は絵手紙クラブの方による「灯籠」の幻想的な灯りと多彩な食べ物で連日大賑わい。「鹿児島の新たな風物詩ができましたね」と市民、観光客に大好評でした。



●3日間で54,000人来場



■鹿児島県人として読んでおきたい

鹿児島県発行「明治維新と郷土の人々」
明治維新という大きな変革期における郷土の先人たちの志や偉業を見直し、明治維新的意義を改めて考える契機とすることを目的にこのたび発行された「明治維新と郷土の人々」。庶民や女性、子どもたちにとって明治維新がどのような影響を与えたのか等、分かりやすくまとめられています。ぜひご覧ください。



■新春特別企画 明治維新偉人クロスワード

150名あまりの応募、142名が正解されました。次回のクロスワードもお楽しみに!

答え いしんのこころを
つたえます

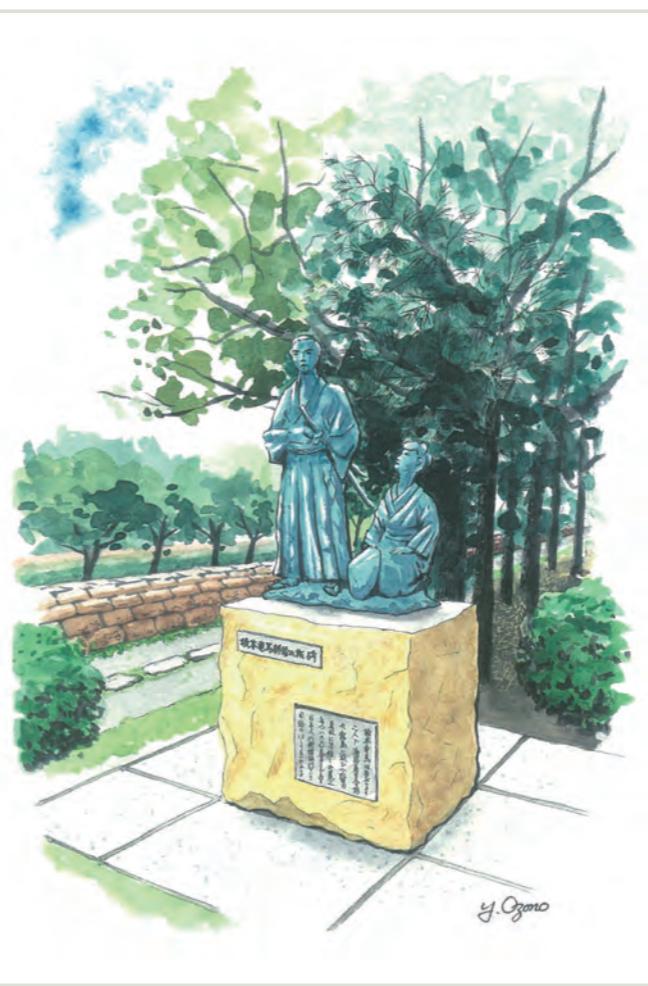


ISHIN 維新



～大阪の天保山から 鹿児島の天保山へ～

「坂本龍馬新婚の旅碑」と天保山



坂本龍馬新婚の旅碑(鹿児島市天保山町) 画 / 大園 康広

維新ふるさと館情報紙 【No.17】

■平成28年(2016年)春季号
■発行:鹿児島市維新ふるさと館
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23番1号
TEL.099-239-7700/FAX.099-239-7800
<http://www.ishinfurusatokan.info>

昭和55年2月、天保山に「坂本龍馬新婚の旅碑」が建てられました。天保山は昔から松林のある景観の優れたところでした。安政年間の古地図には「御船藏地」とあり、天保山中学校の近くには「御船手跡」の碑が、校内には「斎彬御陣屋跡」の碑があるとおり、一帯は藩の海軍の根拠地であり、軍事調練の場でもありました。

天保山は、調所広郷の天保年間の改革のとき、甲突川の支流を現在のように本流に一本化し、同時に川を浚渫、その砂をここ一帯に積んだことから、「砂揚場」とも呼ばれました。

薩長同盟が結ばれたわずか2日後、龍馬は伏見の寺田屋で見廻組に囲まれ、ピストルで応戦して難をのがれましたが、両手を負傷、お龍が薩摩藩邸に助けを求め、大山彦介(巖の兄)らに救助されました。小松や西郷は、同盟締結の仲介の労と傷の湯治を兼ね、龍馬夫妻を鹿児島に招待、一行が藩船三邦丸で天保山に着いたのは、慶応2年(1866年)3月10日のことでした。龍馬は前年も薩摩に来て上之園で借家住まいをしていた西郷宅や、原良の小松別邸などに泊まっていますので、今回が2回目でした。

天保山に「新婚の旅碑」が建てられたのは、ここが龍馬夫妻の発着場となったからです。龍馬夫妻は84日間鹿児島に滞在、帰りもまた6月4日、ここから船で長崎へと向かいました。

「天保山」という地名は大阪にもあり、奇しくも、龍馬たちを乗せて三邦丸の出港した大阪の港も「天保山」という所でした。それゆえ龍馬らは、大阪の天保山(てんぽうざん)から出て鹿児島の天保山(てんぱざん)へ着いたのです。鹿児島の天保山には砲台が築かれ、薩英戦争は、この天保山砲台から発射された第一弾を合図に始まったのでした。また、大阪の天保山も天保年間に築造されたもので、同じく砲台が備えられていました。

龍馬夫妻にとっては、この天保山は、もっとも幸せな日々を過ごした「鹿児島の旅の発着場」であったといえます。

(文/福田賢治維新ふるさと館特別顧問)

